

U.S. Indicators

米国 航空機の大幅減少により予想に反し前月比で減少 (09年8月耐久財受注)

発表日：2009年9月25日 (金)

～低水準ながら回復のモメンタムは加速～

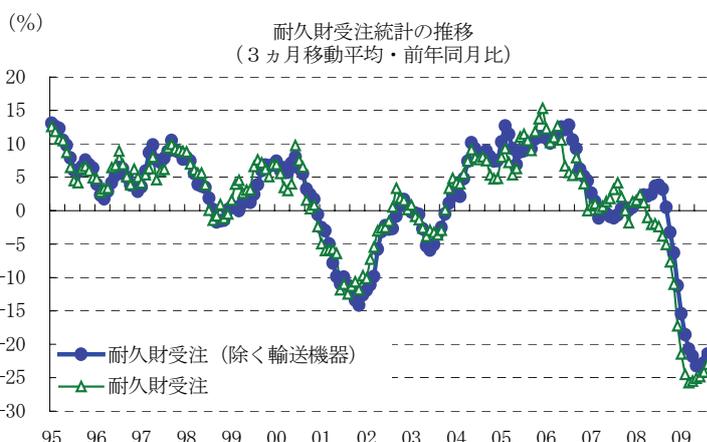
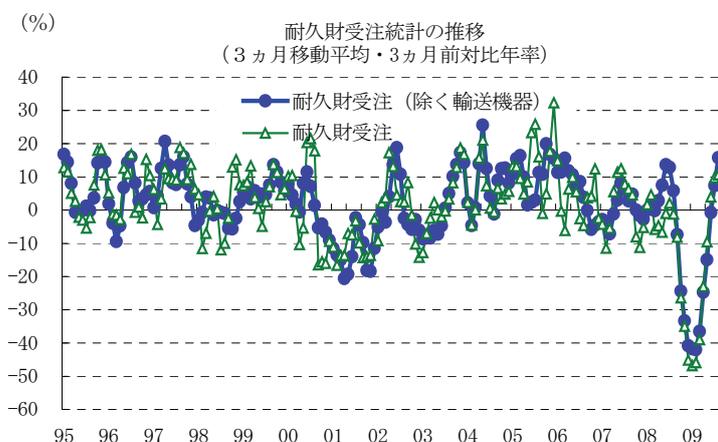
第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

03-5221-5001

8月の耐久財受注は、非国防航空機の大幅な減少等によって前月比▲2.4% (前月同+4.8%)と、市場予想の同+0.4%に反し減少した。一方、変動の大きい輸送機器を除いた耐久財受注は、コンピューター関連の減少によって同0.0% (同+0.9%)と市場予想の同+1.0%を下回った。

3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では、耐久財受注が+10.6% (前月+9.8%)、輸送機器を除いた耐久財受注が+15.8% (前月+7.4%)と加速しており、耐久財受注は回復の勢いを増している。



	出荷				耐久財受注				在庫			
	耐久財	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器	耐久財	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器	耐久財	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器
09/01	▲5.5	▲6.1	(▲14.8)	▲9.4	▲7.8	▲6.5	(▲20.9)	▲12.3	▲1.1	▲1.2	▲0.8	
09/02	▲0.9	▲1.2	(▲14.6)	▲0.2	+1.6	+1.4	(▲18.7)	+4.1	▲1.3	▲1.7	▲0.9	
09/03	▲1.9	▲2.9	(▲17.3)	▲1.7	▲2.2	▲2.8	(▲22.5)	▲1.4	▲1.7	▲2.0	▲1.6	
09/04	▲0.7	▲0.9	(▲19.7)	▲2.9	+1.4	▲0.2	(▲24.0)	▲3.5	▲1.2	▲1.8	▲1.2	
09/05	▲2.7	▲1.4	(▲20.6)	▲0.4	+1.3	+0.8	(▲23.0)	+4.3	▲1.2	▲1.5	▲1.2	
09/06	+0.8	+0.6	(▲20.5)	+1.4	▲1.1	+2.6	(▲23.0)	+3.8	▲1.5	▲2.2	▲2.2	
09/07	+2.2	+2.8	(▲20.0)	+0.3	+4.8	+0.9	(▲22.3)	▲1.3	▲1.1	▲1.9	▲2.0	
09/08	▲1.4	▲1.2	(▲18.6)	▲1.9	▲2.4	▲0.0	(▲18.9)	▲0.4	▲1.3	▲0.7	▲0.4	

(出所) 商務省

(注) 四半期は前期比、月次は前月比伸び率。()内は季節調整値の前年比。

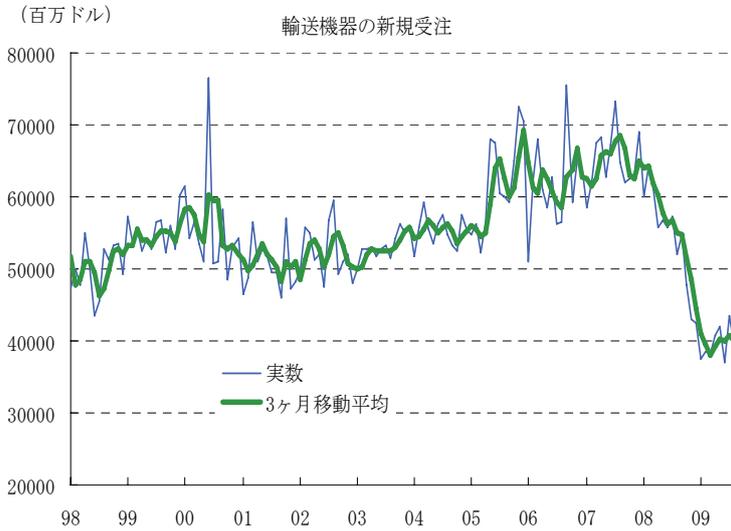
業種別の受注動向をみると、一次金属、加工金属、一般機械が増加した一方、コンピューター、電機機械関連、輸送機器が減少した。一次金属は、需要の回復、価格上昇による押し上げにより増加した。加工金属は、在庫調整の進展、自動車の需要拡大などにより増加したと考えられる。一般機械は、景気刺激策関連の受注に下支えされている模様だ。

一方、電気機器関連は小幅減少したが、住宅販売が拡大に転じ電気設備、家庭用機器の需加が増加していることから、一時的な減少と考えられる。また、コンピューター・電子製品は前月比▲0.7% (前月同+1.7%)と減少した。通信設備が同+1.6% (同+9.5%)と増加ペースが鈍化したうえ、コンピューター・同関連製品が同▲0.7% (同+1.7%)と減少した。世界的な需要の緩やかな回復と在庫調整の進展により、回

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

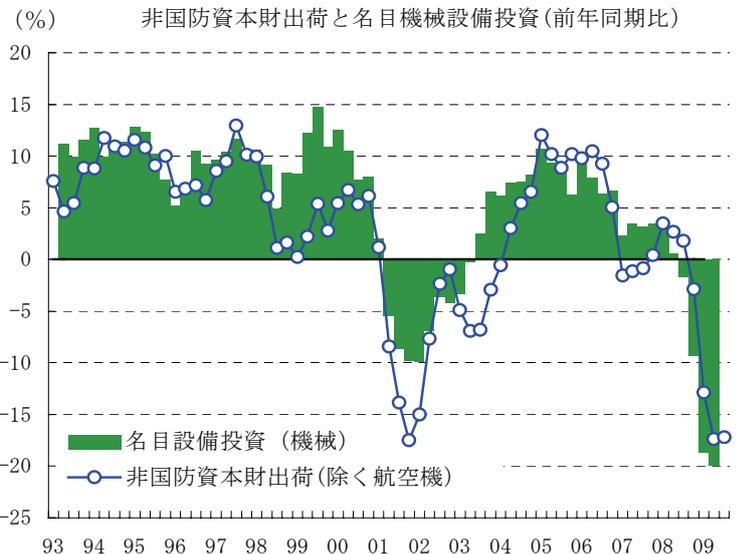
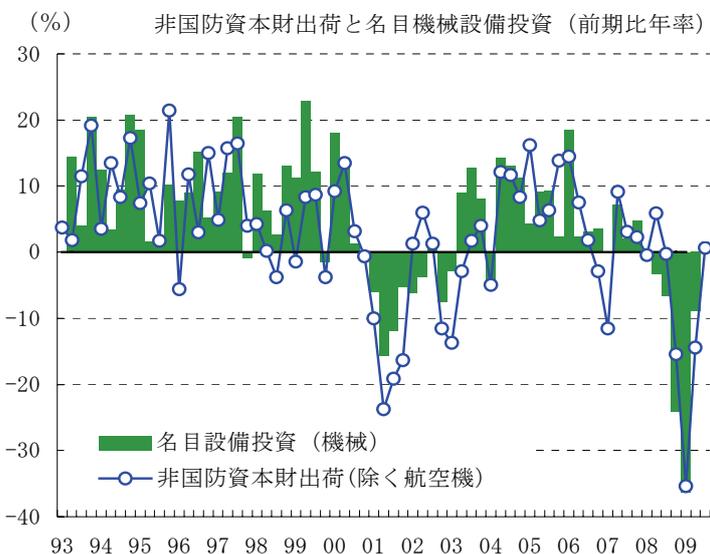
復傾向に変化はないと判断される。

輸送機器は前月比▲9.3%（前月同+17.7%）と減少した。輸送機器の構成項目では、自動車・同部品が増加したが、非国防航空機・同部品、国防航空機・同部品が減少した。自動車・同部品は、自動車買い替え支援策による販売急増を受けた在庫復元の動きにより前月比+0.4%（前月同+1.6%）と2ヵ月連続で増加した。一方、国防航空機・同部品は補正予算による押し上げの反動により前月比▲10.6%（同▲20.7%）と減少が続いた。非国防航空機・同部品は、前月に受注が急増した影響のため同▲42.2%（同+98.2%）と減少した。

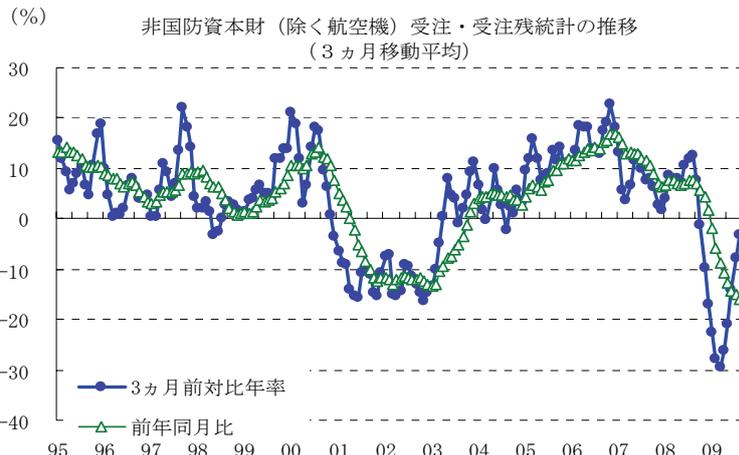


設備投資関連では、機械・ソフトウェア投資の一致指標である非国防資本財出荷（除く航空機）は8月に前月比▲1.9%（前月同+0.3%）と減少した。7、8月平均では、4～6月期比年率+0.6%と4～6月期の前期比年率▲14.4%から小幅のプラスに転じており、7～9月期の名目機械・ソフトウェア投資は前期比年率でマイナス幅を縮小すると見込まれる。

機械・ソフトウェア投資の先行指標である非国防資本財受注（除く航空機）は8月に前月比▲0.4%（前月同▲1.3%）と減少したが、6月にかけて高い伸びとなった反動とみられ、7、8月平均では4～6月期比年率+10.0%と4～6月期の前期比年率+3.8%から加速している。また、非国防資本財受注残（除く航空機）は8月に前月比▲0.4%（前月同▲2.0%）と減少したものの、7、8月平均では4～6月期比年率▲5.6%と4～6月期の前期比年率▲18.3%と減少幅を縮小していることから、10～12月期の機械・ソフトウェア投資は拡大すると予想される。

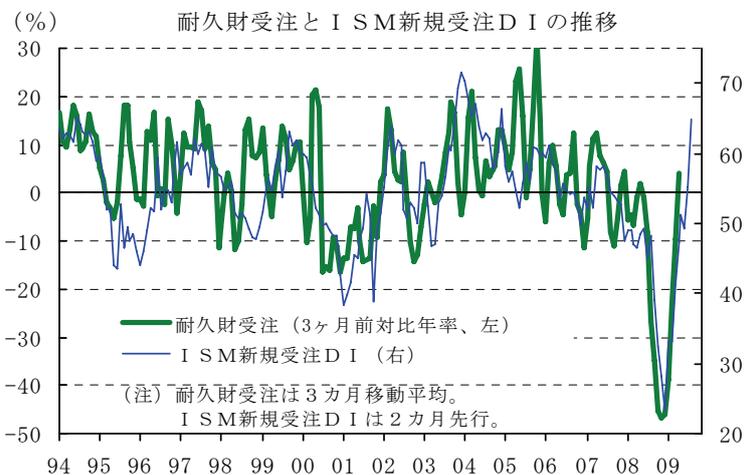
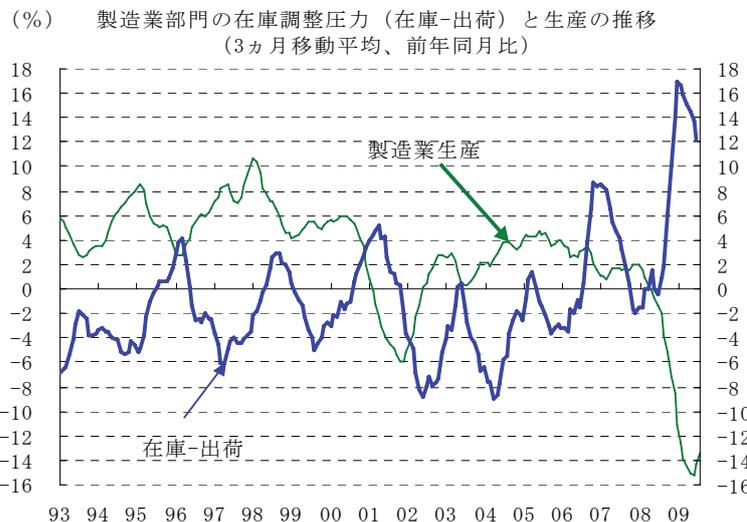


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



今後の生産活動に関しては、製造業生産の前年比でのピーク、ボトムに3～6ヵ月先行する傾向がある「在庫出荷バランス（在庫-出荷）」が2月にピークをつけ7月まで低下していることから、年後半の製造業生産のマイナス幅は縮小傾向を辿る公算が大きい。また、ISM製造業新規受注DIが8月にかけて上昇しており、耐久財受注は3ヶ月移動平均・3ヵ月前対比年率で拡大を続けると見込まれる。

このように、今後も製造業活動の改善が持続すると予想され、耐久財受注のモメンタムもプラス圏で推移しよう。ただし、雇用環境の厳しさから個人消費が弱いことや、低い稼働率を背景に設備投資が脆弱なことから、耐久財受注は3ヶ月移動平均・3ヵ月前対比年率で緩やかな拡大にとどまると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。